

平成29年度第1回滋賀県総合教育会議の結果について

文教・警察常任委員会資料
平成29年7月6日(木)
教育委員会事務局教育総務課

会議次第

平成29年6月14日(水)
14:00~15:55
大津合同庁舎7B会議室

議題

平成29年度滋賀県総合教育会議の進め方について

その他

持続可能な開発目標(SDGs)について

平成29年度総合教育会議の年間テーマ

- 第1回 平成29年度滋賀県総合教育会議の進め方について
- 第2回 幼児教育段階から小学校段階等への系統だった校種間の接続
- 第3回 地域で共に生きる特別支援教育の推進
- 第4回 滋賀ならではの文化財や歴史を通じた滋賀の魅力を発信できる力の育成
- 第5回 家庭・地域に密着した学校教育のあり方
- 第6回 平成29年度滋賀県総合教育会議の総括

<会議の様子>



膳所高校書道部のみなさんに横断幕を書いていただきました。

安曇川高校書道部のみなさんにネームプレートを書いていただきました。

平成29年度総合教育会議の進め方について

平成29年度第1回滋賀県総合教育会議では、「平成29年度滋賀県総合教育会議の進め方について」をテーマに滋賀大学教職大学院より大野 裕己教授をお招きし、御助言をいただいた後に意見交換を行いました。

昨年度の総合教育会議における意見と総括を踏まえ、今年度は子どもたちの「多様性に寄り添う教育」をキーワードとし、左記の年間テーマを議論していく案について提示しました。

主な意見等

〇年間を通した子どもたちの多様性に寄り添う教育について

- ・多様性という言い方は周りから子どもを見たときの言い方である。子どもたちから見れば個性であり、本人たちは多様性とは認識していない。
- ・子どもたちの中には早咲きの子もいれば、遅咲きの子もいる。それぞれが違っても素晴らしく咲けるようにすることが、本当に個性を伸ばすということなのではないか。
- ・集団の中で生きていくにあたっては、伸びしろとも言える弱みの部分を強みに変えていける教育が必要ではないか。

〇本年度の滋賀県総合教育会議の進め方について

- ・多様性という言い方は再考する必要があるが、事務局案にある各回の具体的なテーマを議論していく中で、最後に多様性や個性とは何かを振り返って考えていくべきではないか。

まとめ

「多様性に寄り添う教育」の「多様性」という表現については、今後振り返って考えることとし、年間テーマ案に基づいて平成29年度滋賀県総合教育会議を進めていくことが確認された。

持続可能な開発目標(SDGs)について

議事に引き続いて「持続可能な開発目標(SDGs)について」をテーマに意見交換を行いました。

主な意見等

- ・SDGsの目標達成のためには創造性が重要である。教育においては、アクティブラーニング等が子どもたちの創造性や課題分析をする力の育成につながるので、今後どう現場の教育を変えていくかが重要になってくるのではないか。
- ・滋賀で育ち、滋賀で家庭をつくるという環境をつくるということが持続するという目標には必要ではないか。
- ・琵琶湖の変化等子どもたちが身近なところに気が付き、何をすべきか考えるということもSDGsに繋がっているのではないか。
- ・教育に関してはESD(持続可能な開発のための教育)としてすでにやってきていることであり、すべて背伸びして新しいことをやるわけではなく滋賀県がやってきたこと、やろうとしていることを世界の共通言語で再評価してもらえるとよい。
- ・滋賀県としては新しい豊かさを作り、琵琶湖新時代を発信していくための一つのツールとしてSDGsに参画している。